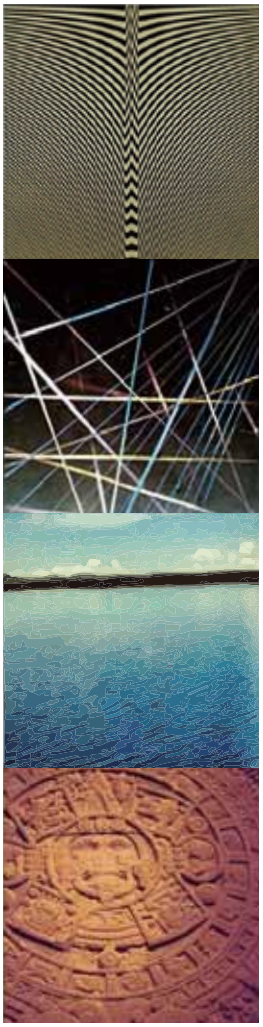
見田宗介／真木悠介の世界

APEX主催　二〇一七年度「開発とNGO」研究会　参加者募集

見田宗介（筆名：真木悠介）さんは、私たちが、ほんとうに豊かに、充たされて生きていくためにはどうすればいいか、という、単純で切実な問いを、まっすぐに、どこまでも問い続け、広大な思索の領域を切り開いてきました。それは、ことの根柢をめざすがゆえに、どのような学問領域からもはみ出し、私たちがふだん自明と考えていることを解体し続けていきます。

二〇一七年度の「開発とNGO」研究会では、初期の、人間解放の全体理論をめざした硬質の仕事から、時間や自我の問題に挑んだ中核的著作群、現代社会の限界と可能性のダイナミズムを論じた近年の著作までをとりあげ、光彩を放ち続ける、その思想の全貌にせまります。



プログラム／テキスト

第1回　5月28日（日）　14:30-17:30　会場：JICA東京国際センター セミナールーム408

人間解放の理論のために

テキスト：真木悠介『人間解放の理論のために』、筑摩書房、1971年
（第二部「人間的欲求の理論」を中心に）

副読本：真木悠介『現代社会の存立構造』筑摩書房、1977年

第2回　7月9日（日）　14:30-17:30　会場：JICA地球ひろば 大会議室

気流の鳴る音

テキスト：真木悠介『気流の鳴る音―交響するコミューン』、筑摩書房、1977年
（『定本真木悠介著作集第1巻　気流の鳴る音』岩波書店、2012年）

第3回　8月6日（日）　14:30-17:30　会場：JICA東京国際センター セミナールーム409(予定)

時間の比較社会学

テキスト：真木悠介『時間の比較社会学』、岩波書店、1981年
（『定本真木悠介著作集第2巻　時間の比較社会学』岩波書店、2012年）

第4回　9月3日（日）　14:30-17:30　会場：JICA東京国際センター セミナールーム409(予定)

自我の起源

テキスト：真木悠介『自我の起源―愛とエゴイズムの動物社会学』、岩波書店、1993年
（『定本真木悠介著作集第3巻　自我の起源』岩波書店、2012年）

副読本：見田宗介『宮沢賢二―存在の祭りの中へ』岩波書店、1970年
（『定本見田宗介著作集第9巻　宮沢賢治ー存在の祭りの中へ』岩波書店、2012年

第5回　10月1日（日）　14:30-17:30　会場：JICA地球ひろば 大会議室

現代社会の理論

テキスト：見田宗介『現代社会の理論―情報化・消費社会の現在と未来』、岩波新書、1996年
（『定本見田宗介著作集第1巻　現代社会の理論』岩波書店、2011年）

ご参加にあたって

対象者
どなたでもご参加いただけます。企業等の技術者の方や技術に関心のある方、大学等の研究者や学生の方、NGOの方など歓迎いたします。

参加費（※）
APEX会員：2,500円、一般：5,000円（全5回分、資料代込）

研究会の進め方
参加者の中から各回の担当者（要約者、コメンテーター）を決め、テキストの内容の要約とコメントをいただきます。それらをふまえて、参加者の間で自由にディスカッションします。実りある会となりますよう、テキストは事前に読んできていただきますようお願いします。

お申込方法（＊）
APEX宛に、E-mail、FAX、お電話などで直接お申込みいただくか、下記のURLまたはQRコードからお申込みフォームを送信ください。
http://www.apex-ngo.org/kokunai/kenkyukai.html

申し込み・お問い合わせ
APEX東京事務所（担当：塩原、三木）
〒110-0003 東京都台東区根岸1-5-12　井上ビル2F
TEL：03-3875-9286　FAX：03-3875-9306
E-mail：tokyo-office@apex-ngo.org

※ 全5回のご参加を前提としておりますが、1回1,200円（資料代込）のお試し参加も可能です。
※ 参加費は、第1回の会場にてお支払ください。
＊ 定員15名、ただし、5名に充たない場合には中止することがあります。
＊ 参加者の方には、原則としてAPEXへのご入会をお願いしています。

主催
特定非営利活動法人APEX（アペックス）
APEX
Asian People's Exchange
〒110-0003
東京都台東区根岸1-5-12 井上ビル
TEL：03-3875-9286
FAX：03-3875-9306
E-mail：tokyo-office@apex-ngo.org
URL：http://www.apex-ngo.org/

● APEXとは
認定NPO法人APEXは、1987年の設立以来、インドネシアを主な活動地域として、現地のNGOと協力しつつ、排水処理、バイオマスエネルギー開発、職業訓練などの事業を実施してきました。活動を行うにあたっては、それぞれの地域の状況に適し、環境にも負担をかけない〈適正技術〉を重視して、現場性のある代案をつくり出すように努力しています。国内では、適正技術人材育成研修、アジアや環境問題等に関する公開のセミナー、「開発とNGO」研究会、スタディーツアーなどを主催しています。

APEX主催　2017年度「開発とＮＧＯ」研究会　シリーズ

見田宗介/真木悠介の世界

会場のご案内

JICA 東京国際センター
〒252-0066
京都渋谷区西原 2-49-5
TEL:03-3485-7051

アクセス
京王新線 幡ヶ谷駅下車
南口より徒歩 8 分
地下鉄千代田線代々木上原下車
西口より徒歩 12 分

JICA 地球ひろば
〒162-8433
東京都新宿区市谷村町 10-5
TEL:03-3269-2911

アクセス
JR 中央線 / 総武線 /
地下鉄有楽町線 /
都営新宿線 / 南北線
市ヶ谷駅下車　徒歩 10 分

「開発とＮＧＯ」研究会とは？

APEX の「開発と NGO」研究会は、今日の世界や、そこにおける問題の構造を深く洞察し、また現状の問題に対する代替案を提起しているような本をテキストとして、その本の内容や読んで感じたこと、考えたことを、参加者で自由に話し合うものです。それを通じて、NGO 活動等の基盤となるような世界観を形成していくことをめざしています。

これまでのテキスト

2016年　シリーズ《機械と人間》
ルイス・マンフォード『機械の神話―技術と人類の発達』『権力のペンタゴン―機械の神話』河出書房新社、イヴァン･イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』ちくま学術文庫、中岡哲郎『工場の哲学―組織と人間』平凡社

2015年　シリーズ《日本の持続可能な未来を考える》
宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書、内橋克人『共生経済が始まる』、藻谷浩介/NHK広島取材班『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く』、大江正章『地域の力―食・農・まちづくり』、広井良典『人口減少社会という希望－コミュニティ経済の生成と地球倫理』

2014年　シリーズ《成長に依存しない社会をめぐって》
広井良典『定常型社会－新しい「豊かさ」の構想』、柄谷行人『世界共和国へ－資本=ネーション=国家を超えて』、鶴見和子『内発的発展論の展開』、水野和夫『終わりなき危機　君はグローバリゼーションの真実を見たか』、見田宗介『定本見田宗介著作集Ⅶ 未来展望の社会学』

2013年　シリーズ《世界史の中の近代技術》
ウィリアム・H・マクニール『世界史』、E.F.シュマッハー『スモール　イズ　ビューティフル－人間中心の経済学』

2012年　シリーズ《これからの技術を考える》
デニス・メドウス他『成長の限界』、E.F.シューマッハー『スモールイズビューティフル-人間中心の経済学-』、中岡哲郎『土とテクノロジー』、高木仁三郎『科学は変わる－巨大科学への批判』、田中直『適正技術と代替社会－インドネシアでの実践から』

2011年　シリーズ《貧困の構造とその克服》
西川潤『飢えの構造－近代と非ヨーロッパ世界』、スーザン・ジョージ『なぜ世界の半分が飢えるのか－食糧危機の構造』、鶴見良行『アジアはなぜ貧しいのか』、湯浅誠『反貧困－「すべり台社会」からの脱出』、アマルティア・セン『自由と経済開発』、ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る－ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』

2010年　シリーズ《代替社会を考える》
イヴァン･イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』、見田宗介『現代社会の理論』、西岡秀三編『日本低炭素社会のシナリオ－二酸化炭素70%削減の道筋－』、竹田青嗣『人間の未来－ヘーゲル哲学と現代資本主義－』、広井良典『グローバル定常化社会－地球社会の理論のために－』

2009年　シリーズ《環境・エコロジーの古典を読む》
リン・ホワイト　Jr.『現在の生態学的危機の歴史的根源』、レイチェル・カーソン『沈黙の春』、デニス・メドウズ他『成長の限界』、E.F.シュマッハー『スモールイズ ビューティフル－人間中心の経済学－』、エイモリー・ロビンズ『ソフトエネルギーパス　永続的平和への道』、イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク－生活のあり方を問う』

～2009年
西川潤『人間のための経済学－開発と貧困を考える－』、見田宗介『現代社会の理論　情報化・消費化社会の現在と未来』、中田正一『国際協力の新しい風－パワフルじいさん奮戦記－』、暉峻淑子『豊かさとは何か』、暉峻淑子『豊かさの条件』、見田宗介『社会学入門－人間と社会の未来－』、加藤博『「イスラムvs.西欧」の近代』、猿谷要『アメリカよ、美しく年をとれ』、水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』、中岡哲郎『日本近代技術の形成－“伝統”と“近代”のダイナミクス』、半藤一利『昭和史　1926-1945』、広井良典『定常型社会―新しい「豊かさ」の構想』、広井良典『持続可能な福祉社会―「もうひとつの日本」の構想』、アマルティア・セン『貧困の克服－アジア発展の鍵は何か』、アマルティア・セン『人間の安全保障』、水野広祐『インドネシアにおける新たな発展の方向をもとめて』

2016年度 参加者の声
（シリーズ〈機械と人間〉）

良い環境だった。「私は文系なので技術は知らない」というセリフが大学生からしばしば聞かれるのは、縦割りの教育産業システムの弊害でもあるのではないかと思った。
（大学生/女性）

技術は社会に、社会は個人に従属を求める。その中で個人の主体性がどこにあるのかを考えた。緊張感のあるディスカッションで、訓練になった。また、いろんな視点で新たな考え方が得られた。
（会社員/男性）

この研究会には何度か参加しているが、本を読んでいるときよりも、ディスカッションの場にいる時に新しい発想が出ることが多い。その発想が自分の中で拡散して手に負えなくなることもあるが、それも楽しい。
（社会人/男性）

研究会の内容の深さに驚いた。機械が社会の形成にもたらした影響という、今まで考えても見なかった視点を広げていただき、とても勉強になった。
（大学院生/女性）